

新コスモス電機株式会社

個人投資家向け説明会

2026年7月4日



新コスモス電機株式会社
NEW COSMOS ELECTRIC CO., LTD.

新コスモス電機株式会社
NEW COSMOS ELECTRIC CO., LTD.

- 01 新コスモス電機について
- 02 事業内容
- 03 当社グループの強み
- 04 中期経営計画2025-2027概要と進捗
- 05 2026年3月期決算概要
- 06 2027年3月期業績予想
- 07 株主還元
- 08 お知らせ

01 新コスモス電機について



「世界中のガス事故をなくす」ために

家庭用ガス警報器を世界で初めて開発して半世紀以上が経ち、
日本のご家庭でのガス爆発事故で亡くなる方はほぼゼロになりました。

一方、様々な産業の分野では、そして世界中には、
今でもガスに関する事故で命を落としている人が多数います。

私たちは、ガスセンサテクノロジーをもっと磨いて、
これからも「世界中のガス事故をなくす」活動をしていきます。



「新コスモス電機」とは・・・

- 1 皆さんのご自宅に設置されている
「ガス警報器」「火災警報器」を作っている会社
- 2 トヨタ自動車「MIRAI」や水素ステーションで活躍
する「水素検知器」を作っている会社
- 3 キャンプや登山などアウトドアで使用する
「一酸化炭素アラーム」を作っている会社



02 事業内容

会社概要

社 名 新コスモス電機株式会社 設 立 1960年6月15日

代 表 者 代表取締役社長 高橋 良典 資 本 金 14億6,000万円

所 在 地 大阪市淀川区三津屋中2-5-4 取 引 所 東京証券取引所 スタンダード市場

事業内容 家庭用・産業用ガス警報器および火災警報器等の開発・製造・販売・メンテナンス



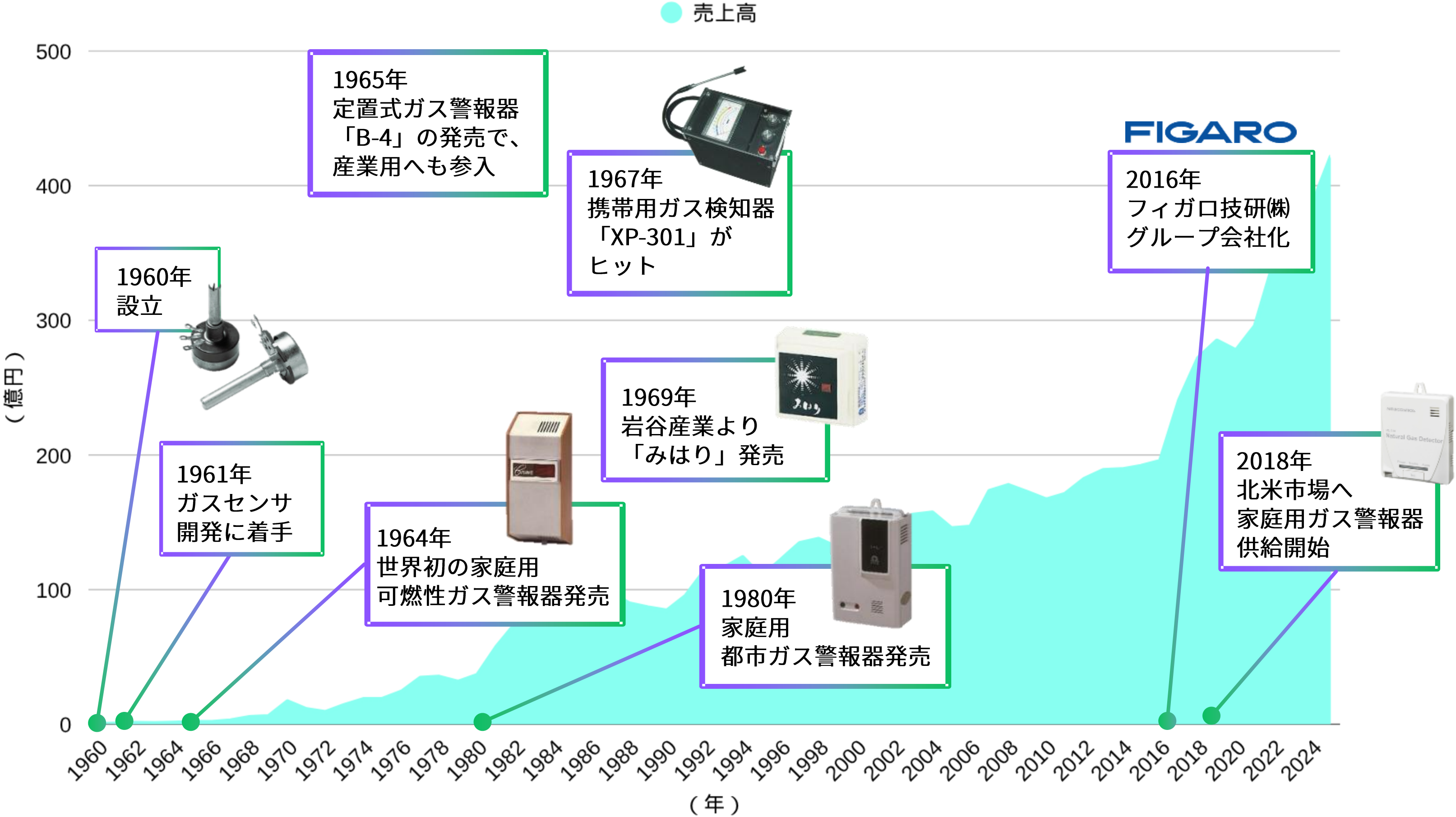
事業内容

ガスセンサの研究開発・製造から、それらを搭載した家庭用・産業用ガス警報器および火災警報器等の開発・製造・販売・メンテナンスを一貫して行っています。



沿革

二度の倒産を経験



拠点



当社

国内事業所	17
海外事業所	2
工場・研究所	6

当社グループ

国内	5
海外	10



03 当社グループの強み

OUR STRENGTH
1

-1

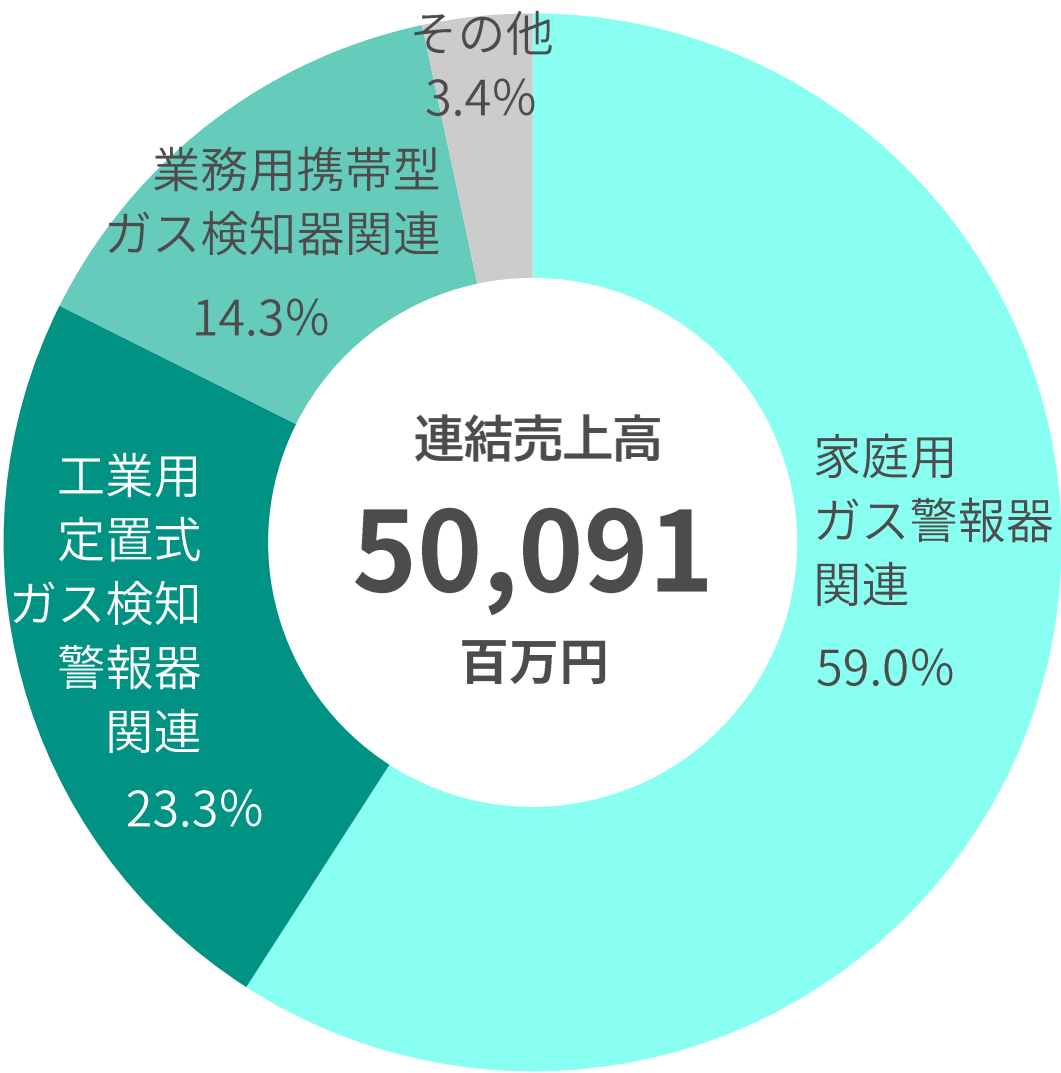
家庭用も産業用もを手掛けるガス警報器メーカーは
国内で当社のみ



産業用
ガス検知警報器



売上構成比率
(2026年3月期)



家庭用
ガス警報器



OUR STRENGTH
1

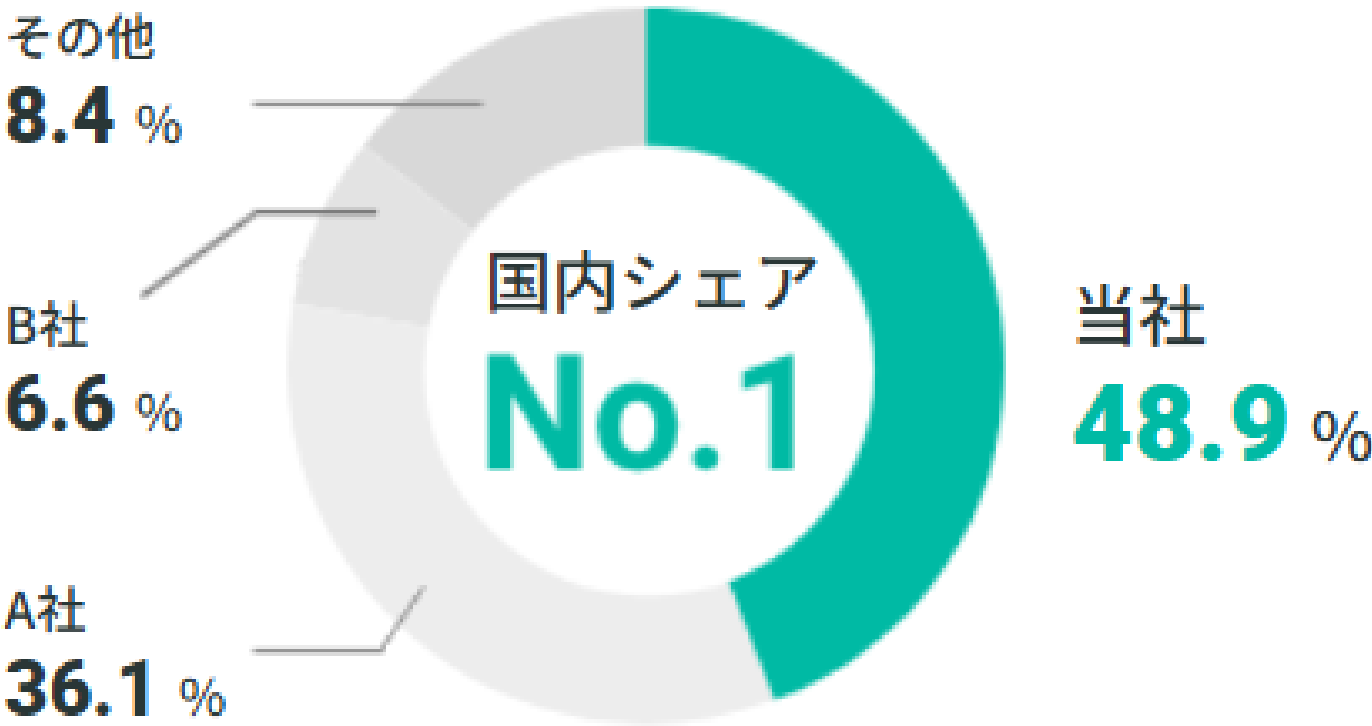
-2

家庭用ガス警報器は国内トップシェア 「ぴこぴこ」や「みはり」の製造メーカー

家庭用都市ガス警報器



採用企業：
大阪ガス「ぴこぴこ」、
東京ガス、西部ガス他
全国の都市ガス事業者



出典：富士経済「DXを実現するセキュリティ関連技術・
市場の将来展望2025」

家庭用LPガス警報器



採用企業：
岩谷産業「みはり」他
全国のLPガス販売店

OUR STRENGTH
2

-1

ガス警報器のコアとなる センサの研究開発から行う技術集約型企业

CH



熱線型半導体式センサ

CS



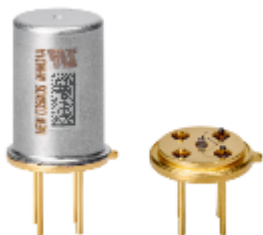
接触燃焼式センサ

COS



定電位電解式センサ

MCH



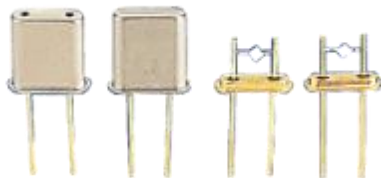
MEMS
熱線型半導体式センサ

MCT



MEMS
気体熱伝導式センサ

CT



気体熱伝導式センサ

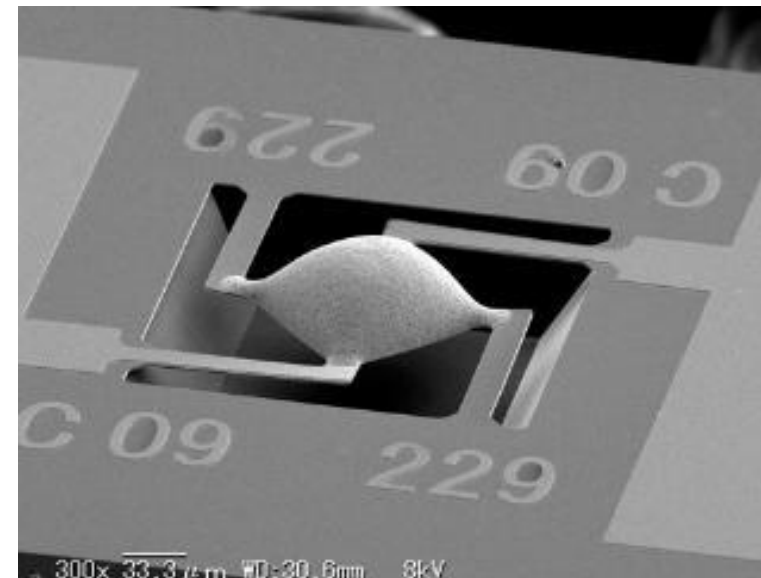


OUR STRENGTH
2

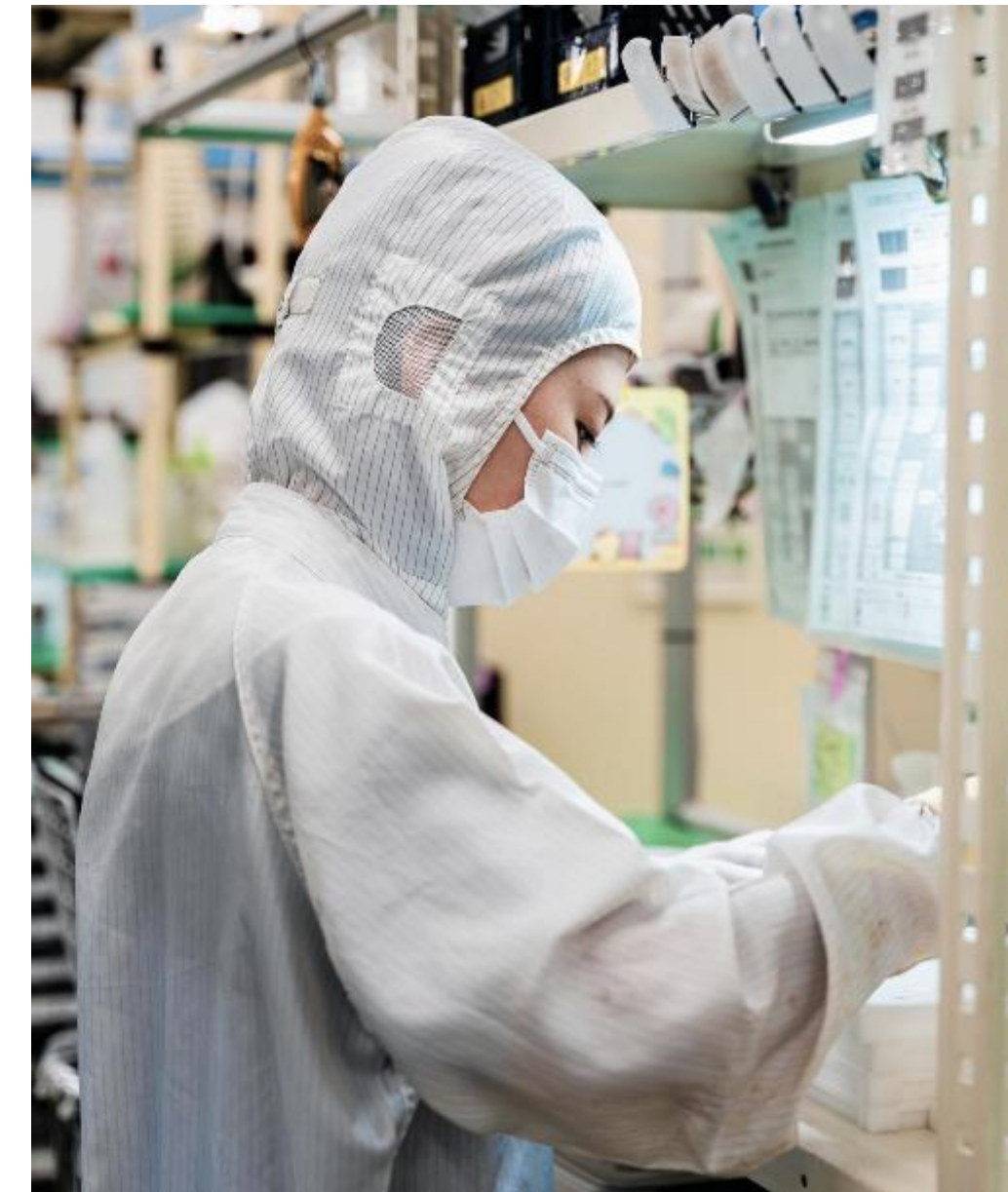
-2 独自のMEMS熱線型半導体式センサ



MEMS熱線型半導体式センサ



センサ素子は0.1mm四方で
体積1/500、消費電力1/600
(当社従来比)を実現



OUR STRENGTH
3

グループ全体で 世界トップレベルのガスセンサ生産能力



コスモスセンサセンター
(兵庫県三木市)



淀川工場
(大阪府大阪市)



フィガロ技研株式会社
(大阪府箕面市)

04 中期経営計画2025-2027概要と進捗

計画の概要

定性目標 MEMSガスセンサ技術を軸にグローバルに展開し、
ガス事故ゼロとカーボンニュートラル社会の実現に貢献する

定量目標

連結売上高

600億円以上

PBR

1.0

海外売上高比率

50%以上

ROE

8.5%

営業利益率

12.5%以上

ROIC

8.0%

計画の概要（考え方）

展開 （投資の収益化）

1. 北米向け電池式メタン警報器の市場拡大
2. 半導体市場における売上拡大
3. MEMSガスセンサの量・質の充実



北米向け
電池式メタン警報器



半導体市場向け
ガス検知器



MEMSガスセンサ



車載用水素ディテクタ



家庭用
電池式水素ガス警報器

拡張 （将来に向けた新市場・新事業の基盤づくり）

1. 欧州を中心としたカーボンニュートラル（水素）市場の基盤づくり
2. 電池式LPガス・水素警報器の開発・普及

計画の進捗（1/3）

展開（投資の収益化）

1. 北米向け電池式メタン警報器の市場拡大

- 市場動向

NY市の設置猶予期限延長（2025年5月⇒2027年1月以降）に伴い、第3四半期以降は住宅オーナー向けの需要が落ち着いた

ホームセンター（Lowes）やネットショップ（HD Supply）の採用増

エネルギー事業者（ConEdison）向けは計画通り、その他事業者へもサンプル提供を進めている

- 生産体制

ガスセンサ：国内自社生産（三木市、大阪市）で、年間200万個生産体制は確保

今中期経営計画期間中（2028年3月末まで）に300万個生産体制を構築予定（計画通り）

製品の組立：国内からメキシコ工場に移管を進め、現在ほぼメキシコ工場で組立

供給体制に問題なし



計画の進捗（2/3）

展開（投資の収益化）

2. 半導体市場における売上拡大

- 市場動向と当社ポジション

当社の半導体市場向け製品の売上は中国・台湾・日本で大半を占める

中国の景気低迷の影響を受けて第3四半期までは売上が低迷していたが、第4四半期に入り生成AI・データセンター向けの半導体製造の需要が増え、回復傾向にある
現在、欧米市場の営業活動に注力

- 当社製品の強み

熱分解コンバーター一体型のNF3（三フッ化窒素）、COS（硫化カルボニル）センサユニットを開発



計画の進捗（3/3）

拡張（将来に向けた新市場・新事業の基盤づくり）

1. 欧州を中心としたカーボンニュートラル（水素）市場の基盤づくり

- 市場動向

欧州市場は予想を下回るスピードだが、水素推進方針は維持
車載用水素ディテクタはFCバスやトラック等へのサンプル提供が順調に進んでいる

- 当社の取り組み

パリ事務所を中心に、水素関連展示会への出展、WEB施策を強化中
各種認証取得を進行中



車載用水素ディテクタ

2. 電池式水素ガス警報器の開発・普及

- 家庭用電池式水素ガス警報器

2025年5月に開発、イギリス・SGN社のグリーン水素プロジェクトに採用。
2026年3月に認証（EN50194）取得完了



家庭用
電池式水素ガス警報器

2026年3月期の計画と実績

	計画	修正発表	2026年3月期 (実績値)
連結売上高	480億円	490億円	500.9億円
営業利益	56億円	70.3億円	73.5億円
営業利益率	11.6%	14.3%	14.7%

05 2026年3月期決算概要

損益計算書（P/L）

- 売上高は前期比18.8%増。営業利益は前期比42.6%増となり増収増益。
- 第4四半期は第3四半期と比べると売上高、営業利益ともに増加傾向。季節的な要因もあり国内が好調に推移したことが要因。

（単位：百万円）

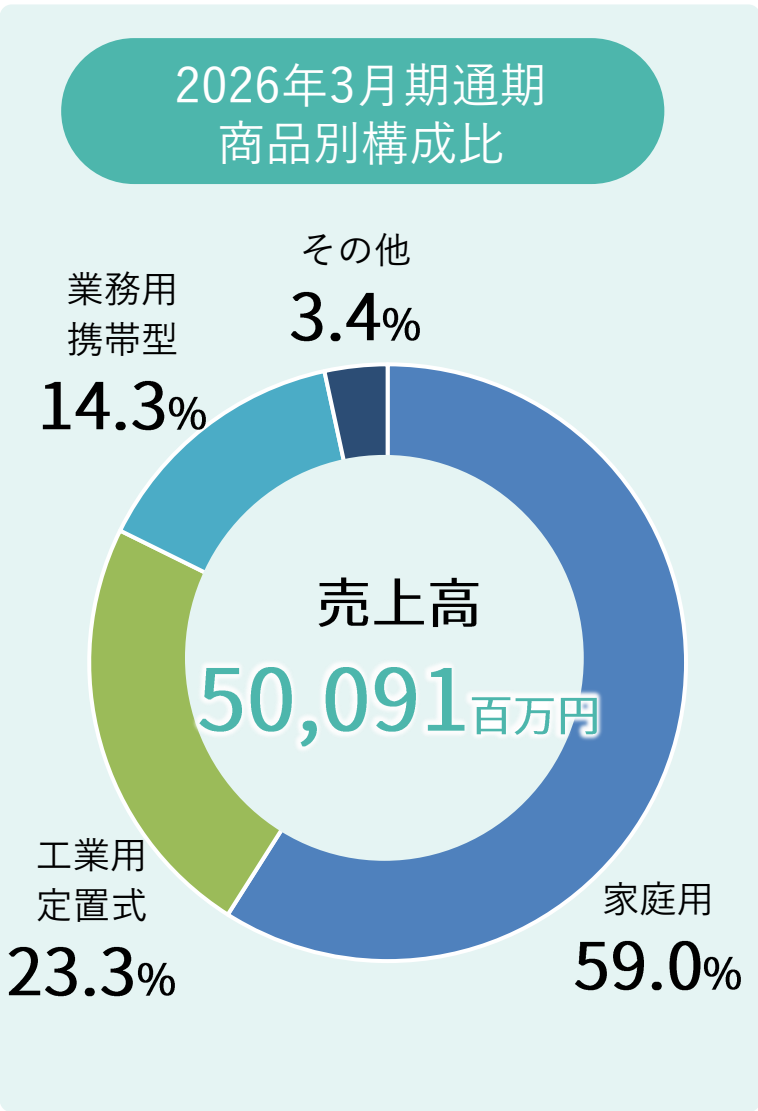
	2025年3月期					2026年3月期					
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	累計	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	累計	前期比 増減率
売上高	9,446	10,768	9,296	12,641	42,153	10,985	13,648	12,131	13,325	50,091	18.8%
営業利益 （％は営業利益率）	1,317 (13.9%)	2,052 (19.1%)	1,003 (10.8%)	780 (6.2%)	5,155 (12.2%)	1,596 (14.5%)	2,421 (17.7%)	1,554 (12.8%)	1,778 (13.3%)	7,351 (14.7%)	42.6%
経常利益	1,581	1,812	1,328	728	5,451	1,545	2,459	1,895	2,021	7,921	45.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	800	1,233	832	510	3,376	955	1,761	1,296	1,195	5,208	54.2%

商品別の概況

- 家庭用：北米向け電池式メタン警報器および警報器用ガスセンサの販売が好調。
- 工業用：半導体業界向けガス警報器およびガスセンサの販売が低調。
- 携帯用：国内の化学業界向けガス検知器およびアルコール検知器の販売が好調。

(単位：百万円)

	2025年3月期					2026年3月期					前期比 増減率
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	累計	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	累計	
家庭用	5,099	5,237	4,801	6,596	21,735	7,043	8,366	7,232	6,963	29,605	36.2%
工業用 定置式	2,537	3,102	2,657	3,695	11,993	2,085	3,001	2,902	3,671	11,661	△2.8%
業務用 携帯型	1,399	1,688	1,471	1,840	6,400	1,472	1,812	1,650	2,209	7,145	11.6%
その他	409	739	365	510	2,024	384	468	345	480	1,679	△17.1%
合計	9,446	10,768	9,296	12,641	42,153	10,985	13,648	12,131	13,325	50,091	18.8%

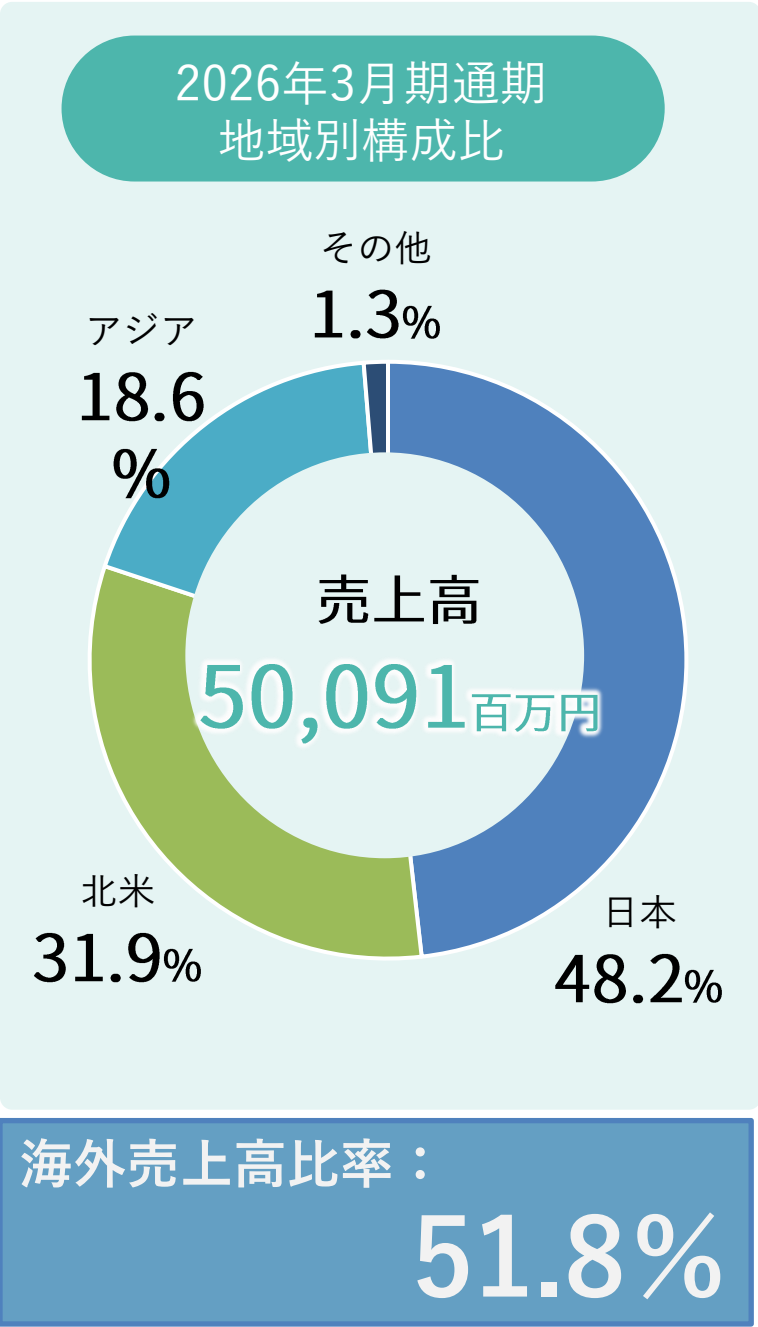


地域別の概況

- 北米の売上は第3四半期以降落ち着いているが、通期では大幅な増収となった。
- アジアは中国、台湾の半導体市場が持ち直し第4四半期以降は回復傾向。

(単位：百万円)

	2025年3月期					2026年3月期					前期比 増減率
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	累計	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	累計	
日本	5,092	5,675	5,278	6,642	22,688	5,060	5,995	5,767	7,329	24,152	6.5%
北米	1,702	1,874	2,042	3,348	8,968	3,850	5,167	3,883	3,042	15,944	77.8%
アジア	2,535	3,070	1,833	2,513	9,952	1,921	2,332	2,333	2,744	9,331	△6.2%
その他	116	148	141	136	543	152	152	148	209	663	22.0%
合計	9,446	10,768	9,296	12,641	42,153	10,985	13,648	12,131	13,325	50,091	18.8%



キャッシュフロー

- 現金及び現金同等物は、投資活動及び財務活動において減少も営業活動において増加。
- 営業活動によるキャッシュフローから投資活動によるキャッシュフローを差し引いたフリーキャッシュフローは37億5,400万円。
- 前期末と比較すると現金及び現金同等物は15億3,200万円増加し、202億4,500万円（前期末比8.2%増）。

（単位：百万円）

	2025年3月期	2026年3月期	前期比 増減率
営業活動によるCF	4,887	5,959	21.9%
投資活動によるCF	△4,731	△2,205	△53.4%
財務活動によるCF	△1,670	△2,358	41.2%
現金及び現金同等物の増減額	△1,284	1,532	—

	2025年3月期	2026年3月期	前期比 増減率
現金及び現金同等物の 期末残高	18,713	20,245	8.2%

財政状態（B/S）

総資産は前期末より61億5,600万円増加（前期末比9.1%増）で、734億4,400万円。負債は前期末比2,600万円減少（前期末比0.2%減）で、160億100万円。純資産は前期末比61億8,200万円の増加（前期末比12.1%増）で、574億4,300万円。結果、自己資本比率は前期末比1.9ポイント増の72.7%。

（単位：百万円）

資産の部	2025年3月期	2026年3月期
流動資産	42,910	46,878
有形固定資産	11,962	11,663
無形固定資産	1,478	1,387
投資その他の資産	10,936	13,515
固定資産合計	24,377	26,565
資産合計	67,288	73,444
負債・純資産の部	2025年3月期	2026年3月期
流動負債	9,099	9,081
固定負債	6,927	6,919
負債合計	16,027	16,001
株主資本	43,355	47,235
その他の包括利益累計額	4,298	6,146
非支配株主持分	3,607	4,061
純資産合計	51,260	57,443
負債純資産合計	67,288	73,444

06 2027年3月期の連結業績予想

連結業績予想

(単位：百万円)

	2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (実績)	2027年 3 月期 (予想)	前期比増減率
売上高	38,546	42,153	50,091	51,000	1.8%
営業利益	4,086	5,155	7,351	6,000	△18.4%
経常利益	4,809	5,451	7,921	6,320	△20.2%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,959	3,376	5,208	3,985	△23.5%

業績予想

売上予想：51,000百万円（前期比1.8%増）

- 北米売上高においては、前期と比較すると弱含みで推移が予想される一方、半導体関連について中国の景気動向に大きく左右されるが、今期は徐々に持ち直すと予測。
- 家庭用電池式LPガス警報器は2026年度中に上市予定で準備中。

営業利益予想：6,000百万円（前期比18.4%減）

- 売上増を見込んでいるものの、原価の上昇、人件費の増加、減価償却費の増加、物価水準上昇の影響を予測。

最新情報

- NY市の家庭用ガス警報器設置義務化の設置猶予期限が2027年1月に決定したことが6月15日に発表され、当初計画には織り込んでいない売上げが今期後半に発生する可能性あり。
- 北米での需要増に対応するために生産管理を行う現地法人を岩谷産業株式会社と合併（岩谷産業60%、当社40%）で設立（6月22日発表）。

レーザーガス検知器の展開

効率的にガス漏えいを検知できるレーザーを用いた遠隔ガス検知器を展開。特に、ガス会社、プラント運営事業者、インフラ点検業務において、現場作業の効率化と安全性向上が期待されています。パートナー企業と協力し、順次ラインナップを拡充しています。



幅広い現場で使われるメタン用

LaserMethane SMART

※開発：東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社／製造：株式会社ガスター



次世代エネルギーとして
期待されているアンモニア用

Laser AMMONIA



ガス漏えいを可視化する新技術ARレーザーガス可視化装置「Laser Gas Visualizer」を開発（2027年製品化目標）

※共同開発：ENEOSグローバル株式会社、東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社、株式会社NeoRealX

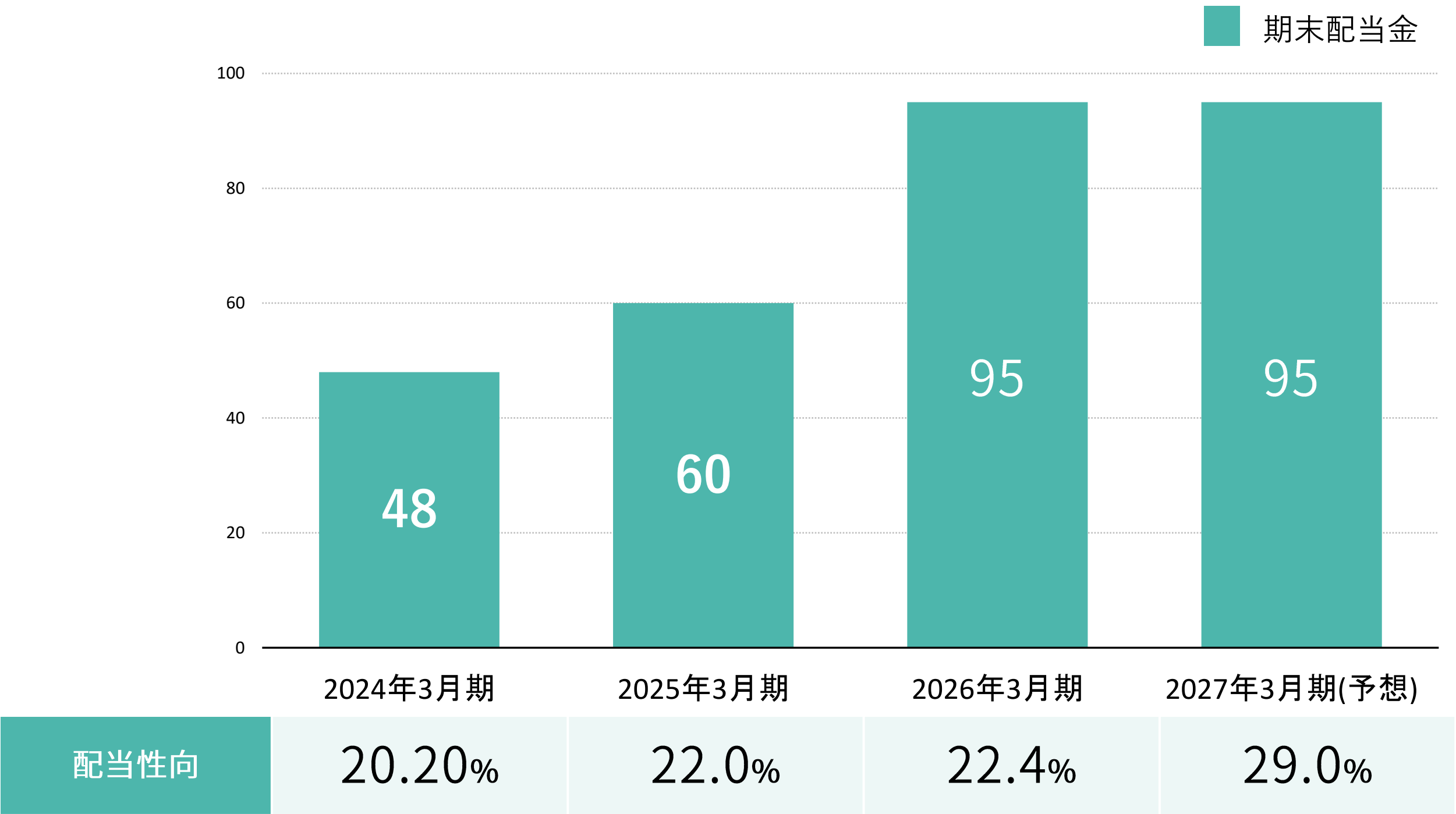
防爆ファン付きウェア「AIR FLOW PRO」の展開

長年ガス警報器の開発で培った防爆設計技術を活かし、防爆エリアでの熱中症対策に役立つファン付きウェアを2025年6月に開発。既に多くの企業様に導入いただいています。さらに高い防爆性能を持つ製品を近日ラインナップ予定です。



07 株主還元

配当金の推移



中期経営計画 最終年度
2028年3月期 目標
配当性向 30%

中期経営計画 2年目

08 お知らせ

横浜市民防災センターの防災パートナー企業に就任

2026年4月に横浜市民防災センターの防災パートナー企業に就任し、同センター内の「煙体験コーナー」のリニューアルに携わりました。火災時の一酸化炭素の危険性や正しい避難方法を学べるコーナーで、当社の一酸化炭素検知機能付火災警報器「PLUSCO（プラシオ）」も紹介しています。



横浜市民防災センター



煙体験コーナー
「新コスモス電機 presents COオバケと煙避難訓練」



ガスセンサ技術で、

世界中のガス事故をなくす



新コスモス電機株式会社